

実証の目的と実施内容

【目的】

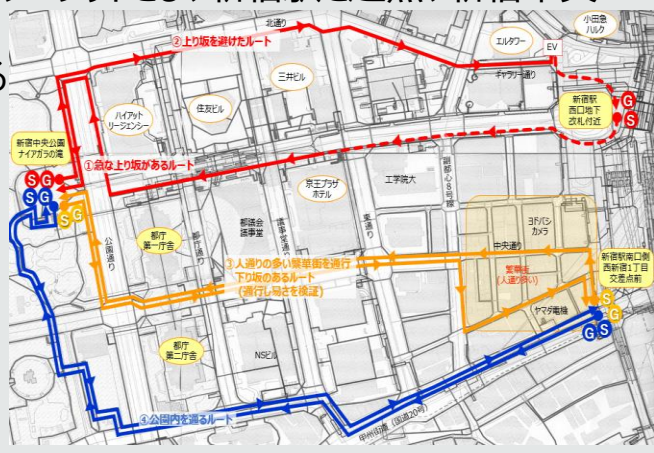
- ✓ 車いすやベビーカーをお使いの方が安全安心・便利・快適に移動するために、バリアフリー地図の整備・更新に必要な情報や課題の洗い出しを行い、今後のバリアフリーサービスに活用する

テーマ バリアフリー	実施エリア 西新宿	プロジェクト実施者 (株)ゼンリン (プロジェクト代表者) 、(株)ゼンリンデータコム、レイ・フロンティア(株)、(株)ミライロ
---------------	--------------	---

① バリアフリー情報の収集

- 現地調査にて、バリアフリー地図として整備すべき情報を確認 (幅員、段差、スロープ、勾配等)
- 本実証内で整備するバリアフリー経路として、車いすユーザーをターゲットとし、新宿駅を起点、新宿中央公園を

終点とする
3経路
を選定



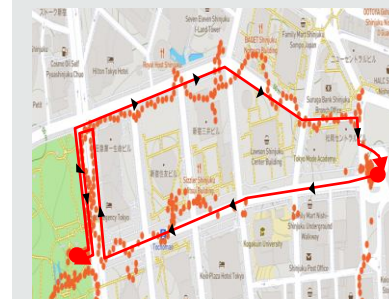
② 現地通行調査

- 段差や傾斜が通行に支障をきたす理由や、地図では表現しきれない障害物、人通りや天候による影響があること等を当事者の方よりヒアリング



③ 走行データを確認

- 選定した3経路について、現地通行調査時に当事者の方が走行した通行実績データを確認し、バリアフリー経路として妥当であることを確認



事業の成果と今後への期待

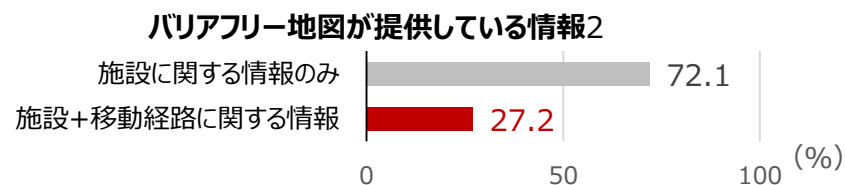
主要な 成果

バリアフリー地図の整備に 必要な情報を把握

- 車いすユーザーが安全安心・便利・快適に移動するために、**必要な地物情報¹として2cm以上の段差・勾配情報・エレベータの位置やメンテナンス情報**等を確認
 - 現地調査の結果、勾配情報・エレベータの位置情報等事前調査で作成したバリアフリー地図の情報が役立つ一方、**段差・溝の蓋・路面状況等、既存の地図では表現できていない情報も重要**だと確認された

バリアフリー地図を整備していくための課題を整理

- バリアフリー地図の作成手法は確立できたが、**より効率的に収集できる手法の継続的検討**が必要
- 地図事業者による経路提案では、**個人差により通行できないケースがあり、写真や路面状況の投稿などから当事者が判断できるような工夫**が必要
- より便利な経路提案を実現するためには、商業ビル等の**民間施設内通路も地図に取り込む必要がある**
- 施設情報に比べ**移動経路関連情報の提供が不足**



実証を 踏まえて

- ✓ 【課題】より便利な経路提案を実現するためには、**民間施設の情報、混雑情報・エレベータのメンテナンスデータなどの複数のデータを掛け合わせ**が必要がある
- ✓ 【課題】整備を持続させるためには、**低コストで収集できる技法を確立するとともに、バリアフリー情報の多目的利用によるコストシェア**なども検討していく必要がある

¹ 現実世界に存在するすべての物の概念であり、建物・道路・植生・行政界・地形等の一切を示す

² 国土交通省 バリアフリーマップ作製に関するアンケート調査